

令和7年度 家庭科 授業改善推進プラン

大田区立南六郷小学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・玉止め、玉結び、なみ縫いなどを、用具の安全な取扱いについて理解しながら、適切に行うことができた。
- ・自分の生活を見直し、学習したことを家庭生活や学校生活で生かそうとする児童が増えてきた。
- ・書画カメラを活用した細かい作業を実際に見せる指導や、学びポケットのオクリンクプラスを活用した振り返りに取り組ませるなど、ICTの活用した授業を実施することができた。

(2) 課題

- ・家庭で既に裁縫や調理を経験している児童がおり、技能に関わる個人差が大きくみられるため、児童一人一人の能力に応じた指導や、友達同士の教え合いを活かした指導に取り組む必要がある。
- ・製作では、完成の見通しをもてずに戸惑う児童が多いため、学習の流れを確実に理解させたり、先に完成図を書かせたりするなどして、見通しをもって取り組めるようにする必要がある。

2 分析（観点別）

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・授業での実践を家庭でも取り組むかどうかで、習得に大きな差が生まれている。 ・児童同士での教え合いや、ICT機器の活用などによって、実技技能は高まっている一方で、返し縫いやかがり縫いの習得に課題のある児童がいる。	・ワークシートを活用し、自分なりの工夫をして学習に取り組む児童が多い。 ・生活をよりよくするための知識を、実生活と結びつけて考えることができない児童が多い。	・食事についての学習では、美味しくする工夫は凝らしているが、栄養や団らんなどの側面についての意識に課題がある。 ・実技分野では、すすんで学習に取り組む児童が多い。 ・作品の完成に時間がかかったり、用語の理解の定着が難しかったりする児童の意欲を継続させていくことが課題である。

3 授業改善のポイント（観点別）

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・ICT機器を活用して視覚的に捉えることで、技能の習得を効率的に行えるようにする。 ・手順や見本を分かりやすく掲示することによって、作業の進め方が分かるようにする。 ・手縫いやミシン縫いは2年間を通して繰り返し学習させ、技能を確実に定着させる。	・家庭生活に生かすための観点を提示し、課題を明確にすることによって、実生活と結びつけて考えられるように促す。 ・児童相互で教え合ったり、作品のよさを見付け合ったりする活動を取り入れる。	・少数のグループでの意見交流や、単元ごとに家庭と連携した振り返りを行わせることによって、普段の生活における知恵や工夫への関心を高めていく。 ・ものづくり活動を繰り返し行わせることによって、生活に活かせるものをつくる喜びを感じさせる。